

回

想

記

— 過ぎ去りし日々のことども —

## 四ノ宮家先祖経歴

四ノ宮家先祖は、現在の香川県三豊市三野町吉津の郷士（郷士とは百姓武らいで、いざ戦となれば武士として殿の元へ馳せ参じる侍百姓のこと）岡田平右衛門は、丸亀藩京極高朗候が大変に相撲がお好きで、度々呼び出され殿のお相手を務め藩士に取立てられ、葭町百番戸に住み禄高十石二人扶持ちを戴く。郷里より年貢米が入るので裕福であった。

廃藩後、丸亀湛浦港傍らで島諸部より石材を取寄せて、平右衛門、石材商を始める。

祖父重吉は琴平で生れる。父清次郎は苗字帯刀を許される家で、琴平金沢町で富田屋と云う屋号で質商を営み、勤皇浪士と交わり金銭も貸したりして援助。琴平町は、高松藩預り天領地にて高松藩は徳川家直轄幕府方にて勤皇方を支援する者は皆敵と見做して国追放となり、清次郎一子重吉、幼少にて連れて行けず、丸亀藩士岡田平右衛門の養嗣子となる。平右衛門が石を扱っていた関係で、重吉塩田築堤を請負う。事業は大成功したと聞く。重吉の弟子（大阪在住）勝村萬吉翁より、家には蔵が二棟あり、中には刀、槍等が束にして沢山あつたと千春が聞く。

重吉には子供が四人生れ、長男丈助、二男利助、三男順二、娘エン。

長男丈助が岡田家を継ぎ、二男利助は重吉の出里が絶えているので再興をする為に四ノ宮姓を名乗る。

三男順二は大阪で住み、朝日ガラス株に務め常務取締役まで出世をするが、大阪空襲により嫁・娘一家焼死する。重吉娘エンは琴平参宮電鉄施設監督と結婚するが子供なく東京で亡くなる。

利助は初代であるが石商として平右衛門より三代目になる。利助は香川県で只一人、明治神宮造営に召され参加。大正七年七月九日造営局に採用される。大正九年神宮完成まで居り帰郷。陸軍省より明治天皇陛下が明治五年、丸亀歩兵第十二聯隊創設の為視察行在所址碑建設を請負う。大正十年十一月建之、今も旧聯隊址消防署横に鳳凰の鳥が上部に乗った大記念碑が建っている。又、昭和天皇陛下御幼少の砌、大正天皇陛下の御名代攝政の宮殿下として陸軍第十一師団大演習に御臨代。

あかつきにこまをとゝめて見渡せは讃岐のふしに雲そかゝれる

と一首詠まれし。

大演習御野立所址大記念碑も善通寺師団長より受け賜り、今も与北山に聳え立っている。三つの後世に残る大仕事を成し遂げる。





利助には五人の子供（男三人女二人）。長男茂は、昭和十二年海軍佐世保海兵団に入り駆逐艦に乗船、中國揚子江にのぼり、歩兵第十二聯隊上陸作戦に艦砲射撃をして援護する。十九年十月二十四日フィリピン東方沖海戦にて戦死す。八年間軍務に服す。行年二十九歳。

千春は昭和十六年、全国青少年に賜る勅諭發布記念式典に皇居前広場で昭和天皇陛下御前を香川県丸亀市代表に選ばれて行進する。昭和十七年徴兵検査で甲種合格、全国壮丁の中より選ばれ、昭和十八年一月十日全国頭号聯隊近衛歩兵第一聯隊第二中隊に入隊、守衛勤務守則勉強中、初年兵の中より選ばれて賢所勤務を命ぜられる。十九年五月特別任務を受け、平成天皇陛下御幼少の砌秘密裡に側近警護兵を編成（第四中隊日光儀杖隊）其の中に選ばれ、皇太子殿下と共に栃木県日光市田母沢御用邸勤務。その間武芸に励み剣術賞及び射撃賞両賞を戴く。二つの優秀賞メダルを胸に付けている兵隊は聯隊中少数の者だけだった。それで特に護衛兵に選ばれたと思う。名誉此れに過ぎるものなし。昭和二十年六月頃日光東照宮近くの御用邸が空爆のおそれあり、皇太子殿下は御用邸を出られ奥日光湯元温泉南間ホテルに仮投宿。山小屋を急遽改築仮御学問所にして通われる。其の時殿下は初等科六年生、朝夕警護申し上げる。殿下の落ち着かれる先は、長野県松代で大防空壕が作っていたのである。

編成時、大矢中隊長編成なるや訓示に「貴様等は此れから先故郷があると思うな、又除隊は永久になしと思え、忠節を尽し御奉公申し上げるのみ」と話をされた。皇太子殿下を長野県松代町まで金精峠を越えて行くか新潟へ下つて行くかの隠密裡の作戦中であった。

昭和二十年八月十五日、天皇陛下御玉音放送ありと聞き湯之湖湖畔に全員集合、皇太子殿下をお迎えして陛下のお言葉を聞く。

翌日、宇都宮師団長がこられ大矢隊長に「貴様が隊長か司令官は何処や」と死に物狂いの形相で畳に軍刀を突き立て大声で叫び田中義人少佐と対示、全軍青年将校が戦闘を継続する為に皇太子殿下を擁立、昭和天皇陛下にはお引下り願いたいと申し、田中司令官は即座に天皇陛下のご命令でお護り申し上げております故、陛下の「おことば」がない限りお渡し申し上げる訳にはまいりませぬとお断り申し上げるも帰られず二日程談判。宇都宮師団は千丈ヶ原に装甲車を配備、威嚇射撃を始め警護中隊戦闘準備に入る。湯之湖口に土嚢を積み重ね機関銃、速射砲を構え、イロハ坂を越えて来れば撃つ戦闘態勢が一週間程続いたと思う。緊張の日々であった。この状態は友軍相撲つ構図であった。宇都宮師団も引上げ長野県松代行きを取り止めて復員準備に入る残務整理要員となり被服を整理、九月二十日頃東京聯隊跡へ帰り、宮内省皇宮

衛士隊勤務、右近隊聰明稜第一班勤務。昭和二十一年三月末をもってGHQの解散命令で四年振りに丸亀に帰り家業を継ぐ。

弟真二は、海軍呉軍港にて潜水艦に乗り込むが無事帰国、兄弟一緒に石材業を始める。

妹礼子は兵庫県西宮市の西本家に嫁ぎ一男一女を生む。長男は神戸市役所勤務、長女恵は中学校用務員として勤める。

末の妹さか江は日本赤十字社より長崎県佐世保大牟田海軍病院勤務中原爆にあい被爆、只今療養中。

千春には三豊郡一ノ谷村（現在の觀音寺市）村長の高橋長太郎新家、高橋寿太郎の娘テルミと昭和二十五年二月十一日建国記念日に結婚、二男に恵まる。長男誠一は関西大学卒、家業を継ぎ高松市の吉田康男の長女佳葉子と結婚、三人の男子に恵まる。長男直樹は高知大学卒。二男裕士は香川大学卒。三男敬太は大手前中学在学中。千春の二男教行は近畿大学卒。琴平町榎井の横山毅の長女礼子と結婚、二人の男子に恵まれて大阪府高槻市古曽部町三丁目五の三二で住み、家業石材商（株）京石の跡を継ぐ。長男匡規は大阪大学経済学部在学中、二男圭二は撰陵高校在学中。

## 千春・テルミ 戰後、平成(今上)天皇陛下拝謁賜る

昭和六十年七月二十六日

東宮御所にて皇太子殿下、美智子妃殿下と

平成六年一月二十六日

新御所にて新御殿新築お祝角盆献上（人間国宝磯井政美作）

平成十四年十月二十二日

元高知城主第十八代山内豊秋候と一緒に新御所にて

平成十六年十月三日

全国豊かな海づくり大会行幸啓の折、先導役務める

### 『追憶』

近衛歩兵第一聯隊は日本陸軍最初の歩兵聯隊として、明治七年一月二十三日比谷原頭に於いて、明治天皇御躬おんみずから軍旗を親授遊ばされて以来七十有余年、皇居北の丸の一角に駐屯して、入りては禁闕守護の大任に服し、出でては軍旗を捧じて勇戦奮闘、よく頭号聯隊の名に相応ふさわしい功績いさざわを挙げる。

近衛兵は全国の壮丁の中から、家柄、人格、資質、健康、五親等に及ぶ調査、など衆の模範たる者が厳

選され、九重奥深く奉仕して皇室の御殊遇を辱した光栄は枚挙に暇なく、また祖国の危急に際しての勲功まいきよ　いとまは、家門の誉れとして末長く語り継がれることである。

しかしながら大東亜戦争の無念の終結により、涙を飲んで七十余年の名誉ある近衛歩兵第一聯隊の歴史の幕を閉じ、隊員はそれぞれの郷里に帰らざるを得なくなつた。戦後の混乱を克服しながらも近衛兵の名譽と戦友愛を忘れ難く、各地に戦友相よ倚り相集つびつて、昭和四十二年、『われわれは元近衛兵として、あくまで皇室を尊崇し 天皇を国民的團結の中心として仰ぎ、深く祖国を愛し民族を愛する』を基本精神として全国近歩一會を結成して、先ず元聯隊跡の北の丸公園に『近衛歩兵第一聯隊跡』の記念碑を建立し、爾來皇室尊崇と英靈奉贊を最重要施策として融和團結に努めた。

新宮殿御造営に際して御庭園灯一対を献上したのをはじめとし、須崎御用邸にカンザクラを、葉山御用邸にジユウガツザクラを、東御苑にベニヤマザクラを献上し、更に地方行幸啓に際しては特別奉迎を恒例として、会員に親しく御言葉を賜わる光榮に沿し、また、『会員の丹精したものならば』との思し召しで、種各の品々を御嘉納賜わる。平成十八年四月最後に『左近の桜・右近の橘』の献上を請願致したところ、天皇陛下には殊の外御喜び遊ばされ、しかも植樹箇所を毎日の御出入り度に御目に触れる御所の御車寄

両側を御躬ら御指定になられ、桜と橘の生命は私達近衛兵の精神を受け継ぎ、禁闈守護木として毎年『近衛兵の花』を咲かせ、皇居に永久に近衛兵の名を残すことになった。

平成十八年 千春記。

雜局第六六號

大正七年七月九日

明治神宮造營局經理課

四、官利助殿

明治神宮御造營石工トシテ日給金壹圓零五錢ヲ  
以テ採用可相成ニ付道具攜帶左記ノ工務所  
ハ出頭可有之候但旅費八支給不致矣

東京府下代々木

明治神宮造營局代々木工務所

四官利助

直庸石工申付  
日給金壹圓整五錢給與

大正七年七月二十四日

明治神宮造營局

直傭石工 四宮利助

自今一日給與額金貳圓八錢

大正八年五月六日

明治神宮造営局

宮 内 省

皇宮衛士ヲ命ス

月俸四十圓支給

昭和二十年九月十日

四宮千春

宮 内 省

# 皇居参内

昭和60年7月27日



今上天皇陛下には御幼少の砌、皇太子明仁親王殿下であらせられし時  
昭和19年～終戦の間、お側近くにお供させて戴いた。（千春）



東宮御所にて、皇太子明仁親王殿下、美智子妃殿下に拝謁



東宮御所にて元警護中隊家族と



↑ テルミ(頭)



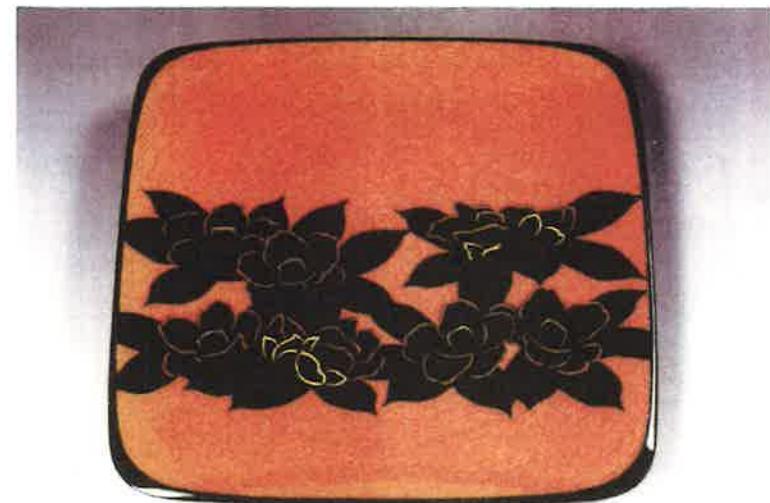
皇太子殿下お部屋前にて



平成18年4月 近衛兵出入りの田安門前にて



新御殿完成お祝い 平成6年1月28日、天皇皇后両陛下に拝謁（東宮御所）



献上品 銘「つらつら椿」  
蒟醬角盆 人間国宝・磯井政美氏作  
日光儀杖隊会



香川県 四ノ宮千春	三重県 泉 長蔵	兵庫県 司令官 田中 義人	香川県 磯井 政美	埼玉県 隊長 大矢孝三郎	滋賀県 高木 芳郎	兵庫県 三浦 英二	滋賀県 磯井夫人
			田中夫人		大矢夫人		



平成14年10月22日 天皇陛下拝謁後、祝宴にて  
土佐藩第18代城主、山内豊秋侯(左上)は近衛歩兵第一聯隊中佐、田中司令官の上官であった。

昭和60年5月

京極家別邸 中津萬象園にて  
お茶席のあと園遊会の席で

右より

中津萬象園 真鍋園長

森田芳子様(大平正芳元総理長女)

四ノ宮千春

三笠宮百合子妃殿下

三笠宮崇仁親王殿下

金刀比羅宮 琴陵光重宮司

三笠宮家は昭和天皇陛下の三番目の弟君である。

三笠宮崇仁親王殿下三男、高円宮憲仁親王妃殿下

妃久子様は香川県三豊郡豊中町笠田字笠岡、鳥取家より  
憲仁親王殿下と御結婚。

テルミの本家、高橋亘理の祖母が鳥取家より嫁して来て  
いる。亘理は官選長野県副知事を務め、終戦後翼賛追放  
により故郷の三豊に帰つて来る。

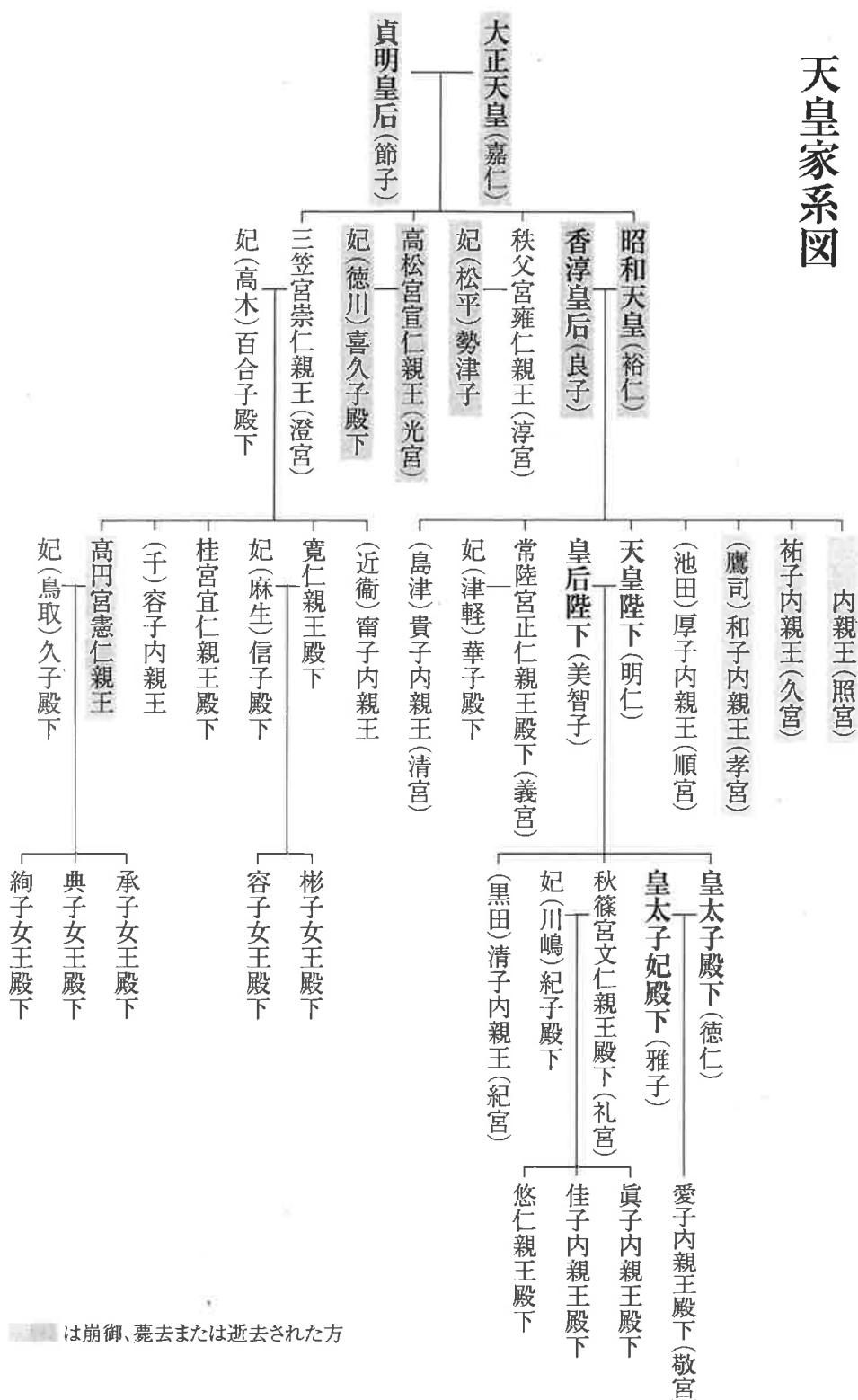




名勝  
中津萬象園



# 天皇家系図



讃岐宮護国神社 神馬



平成9年11月3日、香川県近衛兵会が寄進。  
台座のみかけ石は四宮石材が製作する。  
神馬像は富山県高岡市、平和合金が製作する。

## 神馬奉納式典

神職祝詞

香川県讀岐宮護国神社宮司

矢原國見殿

式次第

一、祭文奏上

一、国歌君が代斎唱

一、英靈に対し 海行かば 黙祷

一、聯隊歌

一、建設委員長挨拶・目録贈呈

塩田雄一

一、来賓祝辞

一、全国近歩一會副会長

一、香川県遺族連合会会长

一、善通寺市市長

一、第一混成團長兼善通寺駐屯司令 渡邊光啓殿

代理公報室長

片岡二等陸佐殿

宮下 裕殿

山内豊秋殿

真鍋賢二殿

一、感謝状贈呈

一、副会長挨拶

石川幸和

## 祭文

本日爽やかな秋晴れのもと、菊薫る良き日に、讀岐の宮護国神社境内に近衛歩兵第一聯隊香川県近衛兵会会員並びにご遺族の方々のご参列を頂きまして終戦五十年、香川県近衛兵会設立四十周年を迎えるに当たり、聖地に青銅製・八尺神馬一式、史料館に聯隊歴史・上下二簡を寄進致す運びとなりました。此れ一重にご参列賜つておられる方々とご協賛頂いた会員皆様方のご尽力の賜でございます。

昨今我国の世情は政治、経済、社会全般にわたり誠に厳しい情勢下にありますが、会員一同の元近衛兵としての基本精神とする、皇室尊崇と英靈に対しての敬神の念厚く、お蔭をもちまして完成を見ることができました。ご祭神もさぞお喜びになられて居られることと思われ敬虔なる気持で本日の式典を迎えている所でございます。願わくばご祭神がお心安らかに鎮座あそばされることを乞い願つてやみません。

今日ここにいとも厳かに奉納の儀式が執り行われ関係する者の一人として、この時を得ましたこと心から感謝致しますと共に神靈の、とこしえに安らかならんことをお祈り申し上げまして私のご挨拶と致します。

平成九年十一月三日

香川県近衛兵会会长 四宮千春

碑文

ここに香川県近衛歩兵第一聯隊在隊者有志相倚り  
終戦五十周年と組織結成四十周年を記念し  
戦友の靈を慰めると共に永遠の平和を祈念して

此の神馬を奉納し近衛兵の皇室尊崇の誠心と  
その名譽を後世に伝えんとするものである

近衛兵第一聯隊は日本陸軍最初の歩兵聯隊として  
創設され明治七年（一八七四年）一月二十三日

明治天皇より軍旗を親授されて以来

昭和二十年（一九四五年）大東亜戦争の終末に至る  
まで皇居北の丸に駐屯して日夜皇居の守護に任じ  
大正天皇 昭和天皇が皇太子で在らせられた時  
それずれ十年の長きに亘り御在隊あそばされた  
名譽ある聯隊である

近衛聯隊は全國から選抜された模範壮丁を以て  
編成された部隊であり西南 日清 日露の戦役及び  
日華事変には軍に従つて出征し輝かしい勳功を樹て  
大東亜戦争では皇居と帝都防衛の一翼を担つた  
尚 星に桜の紋章は近衛兵の帽章に用いた栄ある  
紋章である

平成九年十一月

平成九年十一月

ここに香川県近衛歩兵第一聯隊在隊者有志相倚り  
終戦五十周年と組織結成四十周年を記念し  
戦友の靈を慰めると共に永遠の平和を祈念して  
此の神馬を奉納し近衛兵の皇室尊崇の誠心と  
その名譽を後世に伝えんとするものである

近衛歩兵第一聯隊は日本陸軍最初の歩兵聯隊として  
創設され明治七年（一八七四年）一月二十三日

明治天皇より軍旗を親授されて以来

昭和二十年（一九四五年）大東亜戦争の終末に至る  
まで皇居北の丸に駐屯して日夜皇居の守護に任じ  
大正天皇 昭和天皇が皇太子で在らせられた時  
それずれ十年の長きに亘り御在隊あそばされた  
名譽ある聯隊である

近衛聯隊は全國から選抜された模範壮丁を以て  
編成された部隊であり西南 日清 日露の戦役及び  
日華事変には軍に従つて出征し輝かしい勳功を樹て  
大東亜戦争では皇居と帝都防衛の一翼を担つた  
尚 星に桜の紋章は近衛兵の帽章に用いた栄ある  
紋章である。

敬神功劳賞授与式

春の故申功勞章

四十二人に晴れの栄誉

が「四月二十五日、神社本  
厅でおこなはれた。敬神  
功労章は特に功績の顕著  
な神社の役員、總代、氏  
子崇敬者に贈られるもの  
で、今回は特別功労章二  
人、功労章三人、有功章  
三十七人が贈れの券に沿  
した。

神殿で奉告祭が斎行され、續々授与式では別功労軍代表の小杉氏、功労軍代表の東川氏、有功華代の加藤氏、矢田部正巳は長久各章と功績状が手渡された。その後、矢田部の挨拶があり、受章式

神社遷代太田茂雄  
藤義信、同川村芳信  
清田神社役職森田力  
明社築代名瀬会長尾  
喜八幡社役員山田征  
神明社役員岡野自造  
明神社日比野周連  
神社築代杉浦文治  
社役員鈴木義姫

同伊	和歌山
秋葉	鹿屋郡社役員
史	芦崎大吉
神	天穗御祖社役員
田宗	野尻俊和
春	香川
八幡神社社殿	山北
春日神社子崇敬者	官主
香	春日神社主
林昭明	愛媛
社役員	吹揚琴
畠中弘	佐藤
北村社責任役員	新嘉
神明	北村
野口一芳	宮崎
野口一芳	神柱
同伊	同伊

— 1 —

『次第』

(神社本庁神殿)

一、午前十一時十  
バス出発

五分

一、正直午会

於・亦云  
午後一時

アルニユーロータニ

散会

卷之三

(東京駅までバスでお送り致します)

※当田は午前十時迄に神社本庁へご参集願ります。

○千葉県・浅間神社  
○愛媛県・吹揚神社  
丸亀におられた。  
大野喜平氏は満州航空隊より高知県本土決戦に進駐  
飛行機がなく毎日美味なるものを喰べ遊んでいたと言つて  
田中弘氏は五十七期生。歩兵百十二聯隊に編成され

» 服装は男子は背広、女子は着用とし、女子は男子に準ずるものと致します。



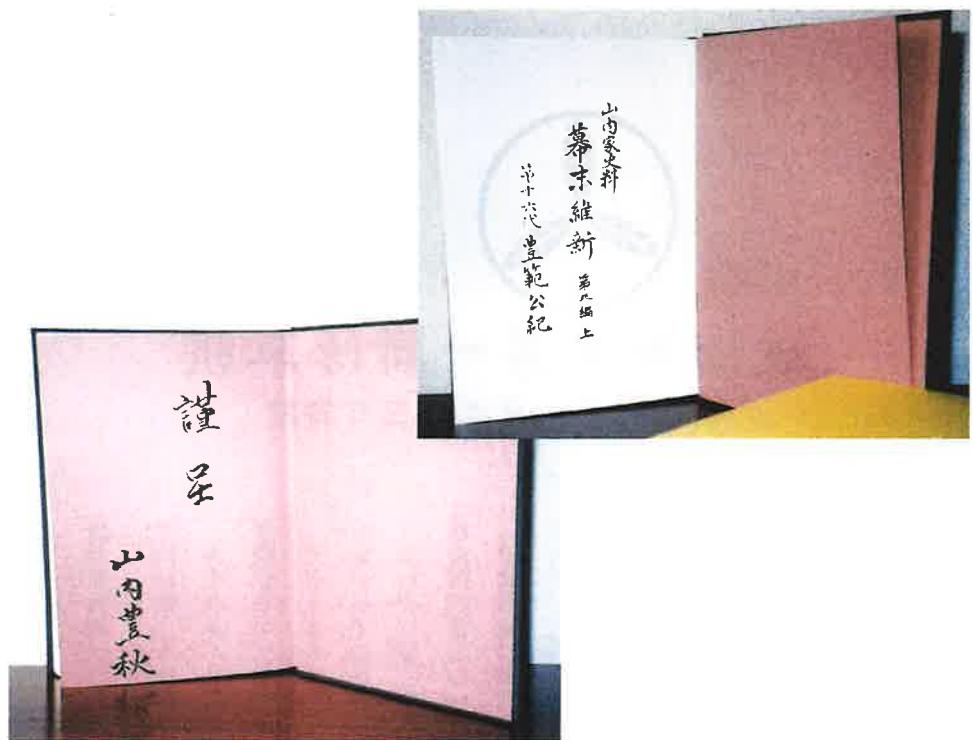
2003年5月24日 高知城主初代山内一豊侯より18代目山内豊秋侯と

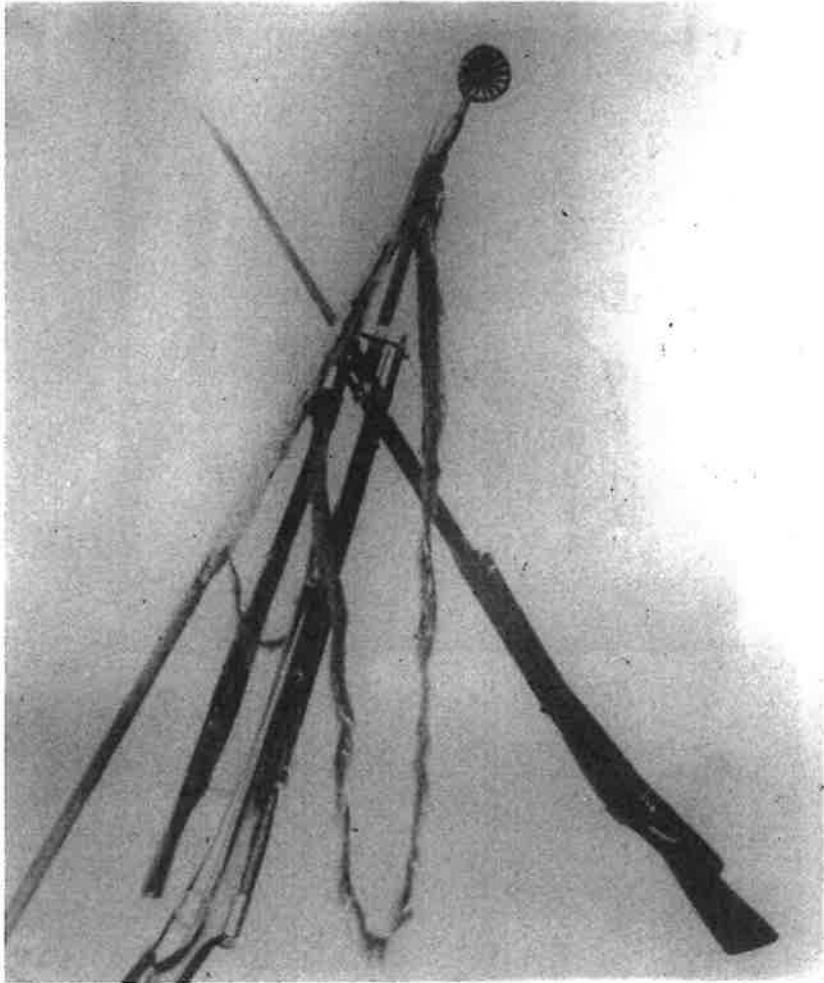




第18代高知城主、山内豊秋候と談笑するテルミ







## 近衛歩兵第一聯隊軍旗

明治七年一月二十三日親授

近衛歩兵第一聯隊歌

一、宇内うだいに類なき皇國に  
おそれ多くも選ばれて

禁闕守衛の任を受け  
奉仕を重しげねる七十年

二、日嗣ひつぎの皇子みこの畏くも  
おわせし誉ほまれいや高く

西南役の昔より

三、代々木戸山の夕日影  
歴戰數次に勳功いんこうあり

富士習志野の朝露に

玉散る劍友つるぎゆうとして

四、精悍無比の士風あり

誠心まこところこめて勇ましく

つとめ励むも君のため

天地日月ある限り

汚けがさじ尊き我が歴史

二十二才の頃



昭和十八年六月、賢所勤務姿（二十一才）  
初年兵の中から二人選ばれる

# 感謝狀

四・宮 千春殿

貴殿は皇太子殿下御幼少の砌田母澤御用  
郎に於て長期に亘り儀隊衛兵として服務  
され光榮に浴されました元近衛兵として  
まことに尊崇天皇と國民の團結の中  
心と仰ぎ深く祖国を愛し民族を愛するの  
精神に敬して近衛歩兵第一聯隊第四中隊  
日光儀仗隊会の發展運営の爲積極  
的に努力されました  
ここに感謝状を贈呈し深甚なる謝  
意を表します

昭和六十年七月三十日

近衛歩兵第一聯隊第四中隊  
日光儀仗隊会  
會長 大矢孝三郎



# 善行證書

香川源

東部第二部隊  
陸軍文長 四・宮 千春

右現役中品行方正勤務  
勉勵學術技藝熟達ス  
因テ此證ヲ附與ス

昭和六十年九月四日

東部第二部隊長陸軍大佐 渡辺 道多郎

印

現在の本社社屋と工場





# 千春の妻 高橋テルミの里 系譜

現在 観音寺市一ノ谷中田井  
高橋家本家は庄屋

一ノ谷村長

高橋長太郎 一弟 鶴吉

従兄弟 高橋寿太郎 長女 テルミ

昭和二十五年二月十一日  
四ノ宮千春に嫁す

高橋寿太郎 妻 カオル  
満州牡丹江市

昭和二十年七月五日没

長男

徹

大正天皇陛下四男、三笠宮崇仁親王殿下の三男  
故高円宮憲仁親王殿下妃、久子女王殿下は  
三豊郡三豊市笠田字笠岡 鳥取本家より嫁す。  
高橋康夫家へ、鳥取久子女王殿下の祖父の妹が  
嫁して来ている。

父寿太郎の従兄弟、

原 数栄は香川県議会副議長を務める。

参議院議員、環境大臣 真鍋賢二の祖母の姉が

高橋 亘の母。

亘は戦時中、長野県官制副知事。終戦後、翼賛

衆議院議員、国防長官 大野功統の里より

公職追放により観音寺市に戻る。

伯母シズエは三豊郡内一番の大地主、大喜多新屋

へ嫁しており、大喜多本家には京極家に貸金の証

文が今も残っている。

JR観音寺駅より十二キロの道を、他人の土地を

歩むことなく帰宅できる大地主である。

獣医、陸軍大尉。

# 履歴

四ノ宮千春

大正十一年一月十六日生

軍歴	表彰状	丸亀市立城西小学校	昭和九年卒業
昭和十九年六月	高松聯隊区司令官 中佐 氣多 傳	丸亀市立城乾尋常高等小学校	昭和十一年卒業
昭和十八年一月十日	香川県知事 小菅 芳次	丸亀市立城乾青年学校研究科	昭和十七年卒業
昭和十八年	高松聯隊区司令官 中佐 氣多 傳	高松聯隊区司令官 中佐 八木清一郎	昭和十五年三月十八日
昭和十九年	剣術 優秀賞 授彰	香川県知事 小菅 芳次	昭和十七年三月十八日
昭和十九年六月	射撃 優秀賞 授彰	昭和十八年一月十日 近衛歩兵第一聯隊入營	昭和十七年十二月十日
昭和二十年九月	皇太子殿下警護中隊編成日光儀杖隊田母沢御用邸勤務	昭和十八年	
昭和二十一年三月	終戦 奥日光湯元	昭和十九年	
昭和二十一年九月	解散	昭和二十年九月	
昭和二十一年三月	依願退職	昭和二十一年三月	
	宮内省皇宮衛士		

拝 謹

皇太子同妃殿下 東宮御所にて 夫婦揃つて 昭和六十年七月二十一日

今上天皇皇后両陛下 新御殿新築お祝い 夫婦揃つて 平成六年一月二十八日

今上天皇皇后両陛下お伺い

功労表彰

丸亀商工会議所議員会幹事長二期六年

平成十四年十月二十二日

日本商工会議所 会頭

石川 六郎

平成四年三月二十六日

香川県中小企業団体中央会 会長

国東 照正

平成八年五月十日

丸亀税務署 署長

正木 一生

平成八年六月十一日

讃岐宮護国神社 神馬奉納につき

全国近衛歩兵第一聯隊会 会長 梅澤 治雄

平成十一年三月十日

香川県近衛兵会 副会長・事務局長 四十八年間務む

丸亀ライオンズクラブ会員 昭和四十八年入会 在籍三十五年

香川県神社庁総代会 監事

山北八幡宮総代会 会長

## 回 想 記

—過ぎ去りし日々のことども—

平成十九年八月二十日発行

著者 四ノ宮 千 春

〒七六三一〇〇三一

香川県丸亀市城西町二一八一十六

電話〇八七一七二二一三七五七

印刷 有限会社 光 文 社

〒五六九一〇八〇三

大阪府高槻市高槻町九一一七

電話〇七二一六八五一〇六三九